

No	⑤	分類	2-(1)-ア	資料名	命のきずな	学年	5・6年	領域	道徳	3-(1)
----	---	----	---------	-----	-------	----	------	----	----	-------

1 ねらい

- 震災を通して、生命がかけがえのないものであることを再認識する。
- 被災し、避難をしてきた友だちとの交流を通じて、ふるさとを大切に思う人々の思いを知り、助け合って生きていこうとする意欲を高める。

2 趣旨

- 震災によって失われた命と、震災後に生まれた新たな命の誕生から、命のバトンについて考える。また、復興途上の過酷な状況にあっても、精一杯生き抜こうとする被災者の姿から、生きることの大切さを問いかける。
- 震災の傷跡が癒えない福島へ帰る家族の気持ちに迫り、ふるさとを大切に思う人々の気持ちを考えさせたい。新しい土地で新しい生活を求める人々と、多くの人や物を失ってもふるさとで暮らそうとする人々の両方の思いを理解させる。
- 震災を経験した神戸の人々と現在震災に立ち向かっている東北地方の人々との交流を知り、今の自分にできることはないかを考えさせる。

3 配慮事項

- 放射能被害については、正確な情報を得て、正しい判断をすることが大切であることを伝える。
- 学級に避難してきている児童や被災した親戚がいる児童が在籍する場合は、事前に気持ちを聞いてみるなどの配慮をする。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 東日本大震災について知っていることを発表する。</p> <p style="text-align: center;">東日本大震災について、知っていることを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波の被害が大きかった。 ・原子力発電所の事故があった。 ・兵庫県の人がいろんなボランティアをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や新聞記事などの資料や具体的なデータを用意し、被害の大きさを知ることができるようにする。 ・震災の想起は、子どもたちの実態に合わせて配慮する。 ・阪神・淡路大震災の被害について知らせる。(地域の実情に合わせる。)
<p>2 「命のきずな」を読む。</p> <p style="text-align: center;">転校してきたころの「ふうちゃん」の気持ちを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を失って本当に悲しい。 ・避難生活は不安で寂しい。 ・早く福島へ帰りたい。 ・友だちはどうしているかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・淡々とつづられている作文の中に、耐え難い思いがあることに気づかせる。 ・ふうちゃんに対して、クラスの仲間が気を遣っていたことに気づかせる。
<p>3 「ふうちゃん」の家族について考える。</p> <p style="text-align: center;">「ふうちゃん」の家族の気持ちを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんとおじちゃんがいなくなった悲しみは消えない。 ・赤ちゃんの命を大切にしたい。 ・神戸の人たちに感謝したい。 ・生き残れたことに感謝して元気をだして生きていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の命が失われた悲しみは消えないことや、生まれてくる赤ちゃんのために避難してきたことなどから、命の大切さについて考えさせたい。 ・福島へ帰るふうちゃんの家族の、喜びと不安が入り混じった複雑な思いについて想像させ、ふるさとを思う気持ちに迫りたい。
<p>4 自分たちにできることは何かを考える。</p> <p style="text-align: center;">「わたし」はどんな手紙をふうちゃんに送ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つらいだろうけどがんばってほしい。 ・困ったことがあれば言ってほしい。 ・ふうちゃんに出会えてよかった。 ・これからもずっとと友だちでいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい情報を知ることや震災を風化させないことが被災地を応援することにつながることを知らせる。 ・クラスの仲間の存在がふうちゃんに勇気と元気を与えたことに気づかせたい。